

いのではないかと。これが街づくりの根本的なところではないかと思えます。市長さんが言われたように、長野市の中心市街地は、善光寺さんを中心とする門前町です。市民全体がもつと善光寺さんを大切に思い、善光寺さんを中心にした街づくりを考えていかないといいけないと思えます。

市長 固定資産税の問題ですが、固定資産税はあくまで公平公正ということの基本において、国全体で基準が決まっています。長野市でも細かに評価をして、商業地は12年度評価替で約97%が据え置き又は引き下げとなっています。

鷺澤 確かに固定資産税をまけてくれというのは不可能です。ただ全体的に、中央通りが疲弊化している一つの原因としてあげられるんじゃないかなと思います。

善光寺さんに年間700万とか800万の人が来られる、その人たちに少しでも下下りしてもらえ魅力が、街がつけていかないとダメなんだらうなと思えます。現実に、石畳や灯ろうができた大門町のあたり、あの県道は人が増えているんですね。いい街になったなと皆さんおっしゃるんです。そういう面からも、市長さんの発案のモール化というのは街づくりの一つの大きな課題なのかなと思っています。我々もぜひやってみようと思うのですが、個々の商店の問題となると大変です。そのへんをどんな風に進めていくか。例えば、セントラル・スクウェアの辺りがモール化されたら駐車場は成り立たなくなってしまうわけですから、経営的にはどうなるの？という具体的な話になりますよね。そのへんも含めて、モール化は街の背骨をつくるという意味で非常に面白い案であるし、私もとしてはぜひやってみようと思えます。それから、善光寺の駐車場を後ろでなく前に持つてこよつと何十年も言われ続けています。これもぜひやってみようけど、かなりお金もかかるし、街の皆さんの了解も得ないとできないこと、非常に難しく、なかなか進まない実態があるわけですね。どういふ運動をしていけばいいか、今のところまだわかりにくいですね。

善光寺を世界遺産に

司会 街の顔は、住む人・訪れる人々にわかりやすい街づくりがいいと思うんです。そこでN

UPRIでは、善光寺を世界遺産にしようという運動をおこそう、そういう切り口でどうだろうと考えているのですが、どうでしょうか。

市長 その話はい前にもお聞きしたことがありますが、世界遺産は日本でもだんだん増えていまして、善光寺さんは日本では最大規模の木造建築です。世界遺産になれば嬉しいことですが、ただ、いろいろと世界遺産指定の条件があつて街並みも含めてということですから、参道の修景など地域の皆さんに協力してもらわないとできません。長野市では、長野市の景観を守り育てよう、特に善光寺周辺の景観は大切にしよう、景観の重点地区に指定しようということ、地域の皆さんと相談をしています。高さの建築制限などいろいろ問題が出てきますから、まず地元の皆さんのご理解とご協力をいただかないといけません。当然、街づくりを進める中で、将来的に世界遺産になれば、非常に結構なことだと思えます。指定の条件を調べながら、周辺の皆さんに協力していただけて進めていきたいと思います。

スケートを長野のメインスポーツに

鷺澤 街の活性化を考えたときに、今の時代、スポーツは重要になると思えます。長野オリンピックをやったことによつても、そういう部分は出てきたのではないのでしょうか。例えば今の時代ですと、サッカーで勝っている地域はものすごい盛り上がりを見せています。だからサッカーという話もあるのですが、これはものすごくお金がかかります。そこで我々としては、エムウエーブほどの施設があるのですから、スケートを長野のメインスポーツにしてはどうかと。今私は、オリンピックの選手になりたかったら長野でスケートをやれよ、それがオリンピックに出る一番の早道だよという話をいろいろなところでもしています。宮部君も入社し、活動してもらっています。他のスポーツ団体から怒られてしまつていますが、私はスケートを長野のメインスポーツに育てあげたいと考えています。市長さんにも応援していただきたいと思えます。

市長 エムウエーブのスケートリンクは世界でもナンバーワンです。あと十数年はトップの座にあると考えています。お陰様で経営の才能を

發揮していただいて、冬場のスケート、夏場のイベントは定着し、3期目で黒字になりました。これからもスポーツ振興やいろいろなイベントでフル活用していきたいと考えています。また、宮部選手に教えてもらえれば相当な魅力になります。今後もあるいろいろな大会が行われますが、障害者の皆さんのスペシャルオリンピックも、世界中の皆さんが長野でやりたいということ、2005年頃に開催予定があります。ワールドカップや世界選手権も盛んになってきて、これからも大いにこのようなスポーツ大会を取り入れていきたいと思っています。また、国の方では、オリンピック出場選手の養成のためのナショナルトレーニングセンター構想というのがあつて、現在調査をしています。長野市としては、世界でもトップクラスのエムウエーブとアジア唯一であるリージュ・ボブスレー

競技用のスパイラル、この二つをぜひ国のナショナルトレーニングセンターにしてもらいたいと要望しており、だんだん具体化してくると思えます。選手の養成もですが、スポーツイベントを盛んにしていきたいと思えます。そのため市民の皆さんにも協力をさせていただくことが大事です。エムウエーブには前からありますが、この前、スパイラルにも友の会ができたんです。いろいろな大会を市民の皆さんに応援してもらうことも大切です。観客が大いに応援する雰囲気があると、大会が盛り上がるし、選手の方々も励みになります。

駐車場をもつと便利に

司会 とところで、エムウエーブ等でのイベントのときに、駐車場がすごいですね。

市長 オリンピックスタジアムでのプロ野球など大きな大会のときは、大勢のお客さんが車で訪れるので、シャトルバスの発着所なども兼ねて、市ではカネボウの跡地を多目的広場として確保しました。それから、ホワイトリングの筋向かいにあった古い体育館を壊して更地にしましたので、あそこも結構車を止められます。シャトルバスの運行も検討して便利にしようと思つています。エムウエーブの周辺も用地が借りられるなり取得できれば、そろそろ駐車場の整備も進めたいと検討を始めているところです。
鷺澤 現実問題として、例えば善光寺周辺の駐

車場は、御開帳や春秋のよいシーズンになると、土日は大変な混雑になってしまいます。車が丹波島までつながつてしまつてもあります。そうなる、あの周辺にそれだけの駐車場を確保することはなかなか難しいだろうと思えます。従つて、ビッグハット横のカネボウ跡地などいろいろなところに駐車場をつくつて、そこからシャトルバスが必要な場所にお客さんを運んでいくことが、方法論としてよいのではないかと私は思っています。

また、エムウエーブの東側の道路が五輪大橋で広がつて4車線になるという計画があります。エムウエーブ側に広がるという話ですので、これができるならばバスの駐車場が全部なくなつてしまつという大変な問題を抱えています。今ですら駐車場が少ないと怒られている中で、本当にこつなつちゃつたらえらいことになるぞと心配の種です。昨年はピーズやグレイなどの大がかりなイベントがありました、この間エムウエーブの職員は、ほとんど電話に張りついて怒られつぱなしでした。南側の土地はまだあいていまして、ぜひ駐車場としてご協力いただきたいと思えます。ただそうなつてきたときに、入り口の問題が出てきます。今現在、北側の正面入り口から入っているわけですが、南側も整備しないと行けないと考えています。そこにトイレを造つてほしいという声もあります。

市長 大きなイベントも増えてきましたからね、駐車場の問題も考えていかないと行けないなという認識はあります。

実は昨年、グレイのコンサートに行きましたが、若い人の熱狂がすごいですね。日本中からたくさんの方がやってきました。ああいうイベントが年に何回かあればいいですね。



鷺澤 あのコンサートは2日間あつたんですが、あの晩は長野市のホテルや旅館、周辺の温泉街はすべて満杯だったそうです。2日間やる

2日とも観たいという人がたくさんいるんだなとつくづく思いました。浜崎あゆみのときは1日だけだったので、皆さんそのまま帰つてしま



ったようです。やっぱり2日間やると効果がありますね。

関田山脈にトレッキングコースを

司会 長野市の中心市街というのは、長野市だけのものではなく、広域的な地域の人たちのシボルにもならないといけないと思います。NUPRIでは広域を考え、信越エキゾチックレッキングというグループをつくって活動しているんですが、そのへんについて、鷲澤さん、お願いいたします。

鷲澤 NUPRIは、長野市に限らず周辺の市町村と協力をして、オリンピックゾーンをターゲットに様々な視点から地域連携を模索しています。

信越国境の関田山脈は、あまり大きな山脈ではないのですが、鍋倉山という山があり、そこ

にはブナの原生林があります。日本では白神山地に次ぐ原生林です。この関田高原に、長野と上越のコミュニケーションということで、トレッキングコースをつくるということになりました。千曲川から海へと水が流れていく、そういう意味で、森から情報発信をしていくというじゃないかという発想です。たまたま建設省から予算を頂戴し、NUPRIが中心となってトレッキング委員会をつくりました。歩くことが好きな方をはじめ、大学の先生も参加しています。

委員長は飯山の市長さんをお願いしました。昨年は上越フォーラムも行いました。この2月には長野でもフォーラムを行います。そして将来的には、関田高原にトレッキングコースをつくるという考えています。単に山を歩くだけでなく、その地域にあるいろいろな歴史や文化を折り込んでいこうと思っています。上杉と武田の争いの頃、上杉が川中島を攻めてきたのは今の18号や北国街道だけではないんです。飯山のあのへんの峠も通ってきたんです。もう通れない峠もあるんですが、ものすごくたくさん峠が関田高原にはあるんです。今、トレッキングのルールづくりから始めています。特に飯山では熱心に取り組んでいます。お金のかかる話ではないし、儲かる話でもないんですが、ある意味では今後はこういうことに北陸圏の応援をしてくださっている方の目が移るかなと思っています。我々は広域的なオリンピックゾーン全体を考えていく一つの道筋かなと思っています。

市長 最近、中年を中心にウォーキングやトレッキングがだいぶ盛んになっています。里山歩きにも魅力は出てきています。長野市から飯山、上越へとトレッキングコースをつくるのは素晴らしいことではないでしょうか。もともと交流の深い地域ですから、いろいろな意味で検討していただきたいです。学校も週休2日になりますので、家庭の日ということも大切になってきますから、トレッキングというのはいいいですね。長野市としてもぜひやっていただきたいです。

鷲澤 この間、ヘリコプターを飛ばして、上空から関田山脈のビデオを撮ったんで

す。県境の山脈をどう歩くか検討しています。向こう側の方にも温泉があるので、そういうところを結ぶんです。新年度に入ったら、信大や飯山の高等学校、上越の学校の山岳部に話をしたいと思っています。コースは1回つくっても、しばらく放っておくと、自然に帰っちゃうんですね。だから、迷わないコースを整備していきたいですね。ただ、車をどうするかが問題です。お客さんは車で来ますが、車では入っていけないので、車をどこかに置いていかないとけない。それにはどうしたらいいか、いろいろな議論をしているんです。

広域的な考え方で街づくり

司会 長野市長は県庁所在地の市長でもあるし、広域連合の長でもあるということで、大変な役目で、ご苦労をされておる訳ですが、そこで、長野の街づくりと広域とのかわりについてお願いします。

市長 長野市は中核市として地方分権で仕事が増えたのですが、3年目ということで順調に推移しています。スピーディーに行政事務を処理して、市民の皆さんへの行政サービス向上に努力しようという張りついています。もう一つは、周辺の市町村の皆さんと一緒に広域行政を進めようということ、昨年の4月から18市町村が一緒になって長野広域連合をスタートさせました。中核市が入った広域連合は全国でも初めてです。管内の人口は57万3千人です。特別養護老人ホームの運営管理や介護保険の介護認定、ごみ処理工場の建設など、18市町村がそれぞれでやるより一緒にやった方が経費が安くて効果が上がるものは、広域連合でやっていきます。関連して先ほどの中心市街地の話になりますが、長野市の中心市街地に、広域連合の57万人がどういうことを期待しているかをよく調べていきたいと考え、今アンケート調査を進めています。その結果が出れば、長野市の中心市街地に期待する57万人の考え方が出てきます。それに合った街づくりをすることが大切です。今、世論調査機関と設問内容を相談しているところで、春頃には結果が出ます。

鷲澤 広域連合、もっと広くいえば北信、長野県の中心性をどこに求めるかが重要なことだと思います。

NUPRIに大きな期待

司会 とところで、都市経営研究所というのはもとオリンピック前に、エムエーブ等のオリンピック施設の跡利用をどうしようかということ、15人ばかりで発足しました。それがエムエーブの跡利用も決まり、このまま解散するのはもったいないということで、200名のメンバーが10部会に分かれ、新たに活動をしています。学校問題などいろいろな問題を抱えているわけですが、いろいろな意見を聞きながら、誰よりも行動を早く進めております。都市経営研究所は今後、NPOという組織にしたいと思っています。その上で、どんなような協力を運動をしていけばよいか知恵を出し合って運動をしたいと存じております。

市長 NUPRIが、オリンピック前から活動されて、街づくりに提言いただいたり、エムエーブやビッグハットの活用について真剣に考えてくださっていることには、大いに感謝しています。エムエーブも第三セクターとして一生懸命やっていたら、最近では黒字になりました。全国の第三セクターがなかなか経営が厳しい中で、黒字になったということで、大変感謝しています。当初、エムエーブやビッグハットの活用として、長野市では国際コンベンションセンター構想を進めようとしてきました。高速道や新幹線が整備されましたので、全国大会やいろいろなイベントが盛んになったのは事実です。11年度の統計でも、スポーツイベントやいろいろな会議、大会で約150万人も来ており、150億円程度の経済波及効果が出ていると思います。あと4〜5年はいろいろな全国大会やイベントが続くので、その間に何とか国際会議都市として定着させたいと思っ一生涯懸命努力をしています。これについても、官民あげて取り組んでいかなければならないと思います。中心市街地の活性化や国際コンベンションセンター構想を進める上で、NUPRIの皆さんに具体的な提言や取り組みをしていただくことは非常に助かります。長野市発展につながることで、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。行政にも提言をしていただきたいと期待しております。

信越工キソチック・トレッキング委員会

県境の水源地から、新たなライフスタイルの情報発信を

NUPRIでは、昨年9月、信越県境の峰々を越え峠を越え、歩くことでそれぞれ異なる性格を持つ地域文化との出会いを体験するルートを探る「信越工キソチック・トレッキング委員会」を発足しました。これは、北陸地方建設局が昨年4月にまとめた北陸地域（長野県の一部を含む8県）の将来ビジョン「北陸の地域づくり戦略」を、各地で具体化するための調査研究活動の一環です。北陸建設弘済会より委託を受けました。「北陸の地域づくり戦略」とは、広域連携による北陸の地域づくりを具体的に推進・展開していくため、北陸地域内の様々な主体による新しい地域づくり活動を支援し、活動の成果等の情報発信を通じて北陸地域のイメージアップを図るものです。

委員会は、委員長の小山邦武・飯山市長、副委員長の市村次夫・NUPRI第2部会長ら、県内外の17人で構成されています。「山、川、海という切り口でユニークな事業を行っている」と、トレッキングルートの提案を中心に、環境への影響を抑えた観光開発やボランティア活動との連携、情報発信としての手法等、様々な研究や討議が行われています。この活動について、詳しくご紹介します。



第1回推進部会

テーマ及び背景

「自然志向」、「健康志向」、「歩くブーム」などに見られるように、今日では各方面で「ゆとり」や「くつろぎ」といった心の問題がクローズアップされています。今、時代は「心の豊かさ」を求めているのです。

「心の豊かさ」の原点には、常に、心に安らぎを与えてくれる故郷の風景、すなわち、山と川が織りなす景観があります。その山と川が出会う水源地域にて、川に親しみ、森に親しむことで、改めて地球規模の環境問題を含めた自然、文化、暮らしの時間を捉え直します。そこには、豊かな自然との出会い、様々な文化との出会い、温かな人と人との出会いがあるのです。こうした作業を通じて、心豊かな新しいライフスタイルの創出を目指すのが、信越工キソチック・トレッキング委員会です。

検討目的及び概要

まず、地域連帯のためのテーマ「流域」（森から海への流れ）を、一つの縦軸に設定しました。その縦軸に、水源地を原点に、いかに他面・多様な横軸を引くことができるか。その方向と可能性を探ることを、検討の基本目的としました。そして、初めに横軸連携探索の核として信越県境の水源地を歩くトレッキングルートを提案しました。さらに、

- ・環境に与える影響を最小限にした環境開発
 - ・地域利益の創出
 - ・自然環境の理解と、地元住民が仲立ちする自然との対話手法
- 等を中心に検討し、流域全体の交流・連携を図っています。多様な豊かな横軸連携が、流域全体のより深い縦軸連携へと発展する、新たな交流ネット創造を目指しています。

活用可能と思われる特性・資源

- ・森林や河川、史跡、食文化、観光資源など、以下のような特性・資源を結ぶルートを検討しています。
- ・信越県境のブナの原生林
- ・自然と人が共生する里山の暮らし
- ・平野部に広がる肥沃な農業地域
- ・日本海に開けた良港と砂浜
- ・信濃川を代表とする日本海に注ぐ多くの河川
- ・上杉謙信ゆかりの史跡群
- ・地域独特の食文化（山ゴボウをつなぎとする蕎麦等）
- ・数多くの博物館、美術館、水族館等の文化施設
- ・海水浴、スキー、カヌーなど海山川それぞれに多様なスポーツ環境
- ・豊かな自然と温泉等の観光資源
- ・多方面で盛んな民間ボランティア活動

対象エリア及び実施場所

縦軸／新潟県上越地域・長野県北部地域
横軸／信越県境が水源の森を歩くトレッキングのルート（案）
深坂峠（新潟県東頸城郡松之山町）長



第1回推進部会

活動状況

- 12年9月14日／第1回推進部会（長野市）
- 12年10月17日／第2回推進部会（飯山市）
- 12年11月13日／第3回推進部会・第1回フォーラム（上越市）
- 12年11月30日／第4回推進部会（長野市）
- 13年1月10日／第5回推進部会（長野市）
- 13年2月24日／第6回推進部会・第2回フォーラム（長野市）

以上のように、昨年9月から現在までに、5回の推進部会とフォーラムが行われました。新潟大学、信州大学の教授をはじめ、広く大勢の方々にご参加をいただいています。第1回推進部会では、委員会の基本方針につ



第1回フォーラム

いての意見調整等が行われました。

第2回推進部会では、なべくら高原茶屋池散策路視察をはじめ、森の家支配人・木村宏氏による対象地域の空撮ビデオによる説明、新潟大学教授・大熊孝氏による「川と川とのつながり」と題したスピーチ、中部森林管理局によるブナ林の植生についての説明、信州大学教授・中村浩志氏による生態系についてのスピーチ、作家・加藤則芳氏に「世界を歩いてロングトレイル」と題したスピーチなどが行われました。また、自然破壊にならないトレッキングルートづくりを行わなければならない、維持管理やトイレはどうするか等、問題点についても討議されました。

第3回推進部会では、モデルエリア（関田山脈トレッキングエリア）水源域の山岳を歩くエリア、古道探訪ルート、中流域の里山を歩くエリア、親不知子不知ルート、下流域の浜辺を歩くエリア、川下り及び水源探査エリア、流域を縦走るエリアの提案がされ、活発な自由意見の交換も行われました。また同じ日、「いま、峠がおもしろい、県境信越トレッキングのススメ」と題した第1回フォーラムも行われました。

加藤則芳氏による「世界のロングトレイルを歩いて」、水見完治氏による「上杉謙信の川中島への道」、木賀賢一氏による「北国街道・関川関所」と題した講演は、それぞれ大変興味深いものでした。コーディネーターを鷺澤正一氏、パネリストに講演者3人と小山飯山市長と横田上越副市長を迎えたディスカッションも行われました。

第4回推進部会では、森の家支配人・木村宏氏による「新ルートづくりの実際及び実施運営組織」と題したスピーチが行われました。ルートづくりの運営や維持方法について、ごみ問題や学校やボランティアの協力等、より具体的な討議が行われました。

第5回推進部会では、ルートとエリアごとのテーマや特徴、エリア内の資源、アクセス手段の具体例について等、各担当者による研究内容の説明が行われました。

第6回推進部会と第2回フォーラムは2月24日に開催される予定です。今後の活動も大いに注目ください。



第5回推進部会

セントラル・スクウェアにてカウントダウンイベント開催 NUPRIも協力



2000年12月31日、セントラル・スクウェアにて、長野朝日放送主催「カウントダウン」OYプラザが開催されました。

今回は善光寺で採火されたご法燈を彦坂住職がセントラル・スクウェア入口で、辰年生まれの小学生男女2人に手渡されました。会場内には事前に新聞などで募集した約300人が整列し、最後尾の巳年生まれの子供達が聖火台まで「ご法燈渡し」を行い、最後はシドニー五輪ビーチバレーで4位入賞した高橋有紀子選手（須坂市出身）に渡され聖火台に点火されました。

この時午前零時、打ち上げ花火が夜空を彩り、集まった市民の皆さんの歓声でCS内は大いに盛り上がりました。又オペラ歌手による熱唱、会場全員での「信濃の国」の大合唱等イベントは大成功に終わりました。

NUPRI会員の皆様には大変ご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。



スケートを長野市のメインスポーツに

長野市スケート協会理事長 福澤寛氏

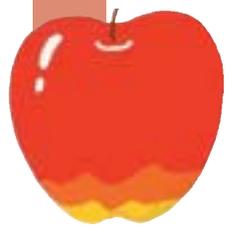
エムウェーブを善光寺と並ぶ「長野の顔」にしていくことは、冬季五輪を開催した長野の街づくりにとって重要な課題であると認識しています。そのためには、スケートに対する市民の皆様の関心を高め、スケートを人気のあるスポーツ、長野のメジャースポーツに育てることが必要だと考えています。

長野には現在、伝統ある長野フィギュアクラブをはじめとして、昨シーズンから発足した長野スピードスケートクラブ、スピードスケートトレーニングクリニック等が力強い活動を展開しています。当協会においても、スケート人口の底辺拡大や青少年の育成を目指したスケート教室を開催し、好評を博しています。また、1月1日～2日に韓国のソウルで行われた「第10回ジュニアスピードスケート競技会」では、長野県から2名の選手が出場され、当協会の会長である鷺澤正一氏は、この2人に会長賞を進呈しました。このように、長野のスケートの将来は明るく、オリンピック選手を輩出する実現性も大いに期待されています。スポーツを楽しみ、さらに上達させていくには、よい施設、よい指導者、よい仲間が必要ですが、現在、長野においてのスケートは、その全ての要素を満たしていると思われるます。

当協会では、今後もスケート人口の拡大を図り、選手育成に力を注いでいきたいと考えております。また、協会員が主体となって、長野で開催される世界規模の競技会を運営できる体制を確立したいと思っています。そのために、財政や組織の確立、規約の改正、外部組織との連携強化等を進めていく必要があります。特に財政面では、賛助会員（会費2万円）を募集しております。NUPRI会員の皆様、長野のスケート振興のために、ぜひご協力ください。

第8部会 農業はアミューズメント!

リンゴの木オーナー制の一年



「最高のリフレッシュになり、景色のすばらしさと静けさに感激。稲をザクツと鎌で刈る快感は最高。」

「子供に農業体験をさせる事ができ、家族で共に汗をかくことができた。」

「子供達と一緒に参加しましたが大自然と触れ合う事ができた。自分で作った米はおいしい。」

「ストレスの多い社会の中で棚田へ来て過ごす、一日がホットする場所になりました。」

「長野県を身近に感じる様になり、田植えから稲刈りまで毎月稲の成長を見にいきました。」

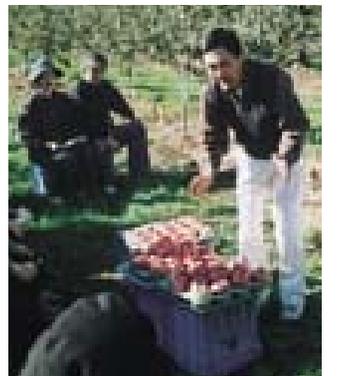
これらの意見は更埴市が実施している「おぼすての棚田」に参加した棚田オーナーのアンケートから抽出したものです。更埴市西部棚田地域約25haは耗作に不便、労働力がないの2点から荒廃化が進み、環境保全や防災等大きな課題をかかえていました。そこで計画されたのが「棚田貸します」制度でした。

更埴市がオーナー会員を募集し地元農家の方々で構成される「名月会」に作業委託し、名月会の方々が農業体験なしのオーナーに農業指導をするトライアングルが組まれていきます。

第8部会ではアミューズメント「楽しめる時間の創造を切り口とし新しい事業創出プランを検討していました。生産された最終商品だけでなく、生産、育成のプロセスが実はアミューズメントと考えてみる事からスタート。その第一段階として三水村のリンゴ生産農家宮本幸一朗さんのご協力を得て「リンゴの木オーナー制」が実現し



ました。会費は25,000円(1口)とし、フジリンゴ60kgの収穫保証をつけ会員を募集。NUPRI会員の皆様を中



心に25口24人の参加を得ました。

この内農業体験者はわずか2人、更に大阪、神戸、京都の関西地域からも5人の応募があり発足。春の花摘み作業がてら農園へ、園主からリンゴ栽培作業についての基本をお話しいただき、自分のオーナー木を決め花摘み。ただしオーナー木は3年目の若木(生産性がある本格的な木は10年木)ままご程度ではありましたが参加者の大半が初体験で「楽しい時間」を過ごしました。会員の内には月に何度か園地に向き、草刈りや日々変わる木の様子を見て楽しんでた方もいました。夏が過ぎ実りの秋11月今度は待望の収穫。フジの実りにはまだ早いのですが収穫祭。やはりもぎたてはおいしかった! この収穫祭でもご家族、友人を連れだつての



会員さんが多く、又関西からの1組は、三水村はもちろん長野市も初めておとすれたとの事で2泊3日の小旅行を楽しんで帰られました。

2007年をピークに減少が始まる日本人口。団塊の世代が定年をむかえるのもこのころです。アミューズメントは今までも、これからも「時を経ていく」「時間消費」での重要なキーワードであり続けるでしょう。それは冒頭のアンケート結果がしめています。第8部会では更にアミューズメント農作業や製品化の研究を進め、そこに雇用も含めた新たな事業創出を模索していく予定です。

編集後記

NUPRI 第9号では、塚田佐長野市長と鷲澤正一理事長による新春対談、信越エキゾチック・トレッキング委員会の活動報告を中心に、内容豊富な紙面となりました。21世紀を迎えた今年も、中心市街地を活性化させるために、スケートを長野のメインスポーツに育てるために、信越国境にトレッキングルートをつくるために...、NUPRI ではさらなる活動を進めていきます。NUPRI NEWSでは、これらの情報を今後も意欲的に紹介していきたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いたします。